

事務事業マネジメントシート

事務事業名		河川公園等維持管理事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02 住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	04 都市公園の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	一部委託	
	一般	08	03	01	河川公園等維持管理事業	事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	～			
根拠法令・条例等 佐野市公共物管理条例、佐野市河川公園条例、佐野市河川公園条例施行規則								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）									
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
一級河川の改修と一体的に整備された河川公園の除草等維持管理を行い、快適な河川公園を確保し、市民の潤いの場を提供する。			利根川水系一級河川彦間川河川公園（5箇所）の芝生管理、植栽管理、牧親水公園の草刈、牧親水公園取水堰堆積土砂除去、トイレ掃除等維持管理を行った。（需要費 496千円、委託料 1,741千円などの2,237千円の事業を実施。）						
飛駒出川河川公園外4箇所の管理 牧親水公園の管理 秋山川赤坂町緑地の管理									
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			除草回数	回	17	17	17	22	22
			トイレ清掃回数	回	72	72	72	72	72
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）									
河川公園・緑地数			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			河川公園・緑地の数	箇所	7	7	7	7	7
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）									
河川公園・緑地を安全・快適に利用してもらう。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			市民からの苦情・要望件数	件	目標 0	0	0	0	0
					実績 0	0			
					目標				
					実績				
④結果（どのような結果に結びつきますか？）									
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
			市民1人当りの都市公園面積(県営を含む)	m ²	目標 20	20	20	20	20
					実績 19.93	20.15			
					目標				
					実績				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,002	2,237	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	2,002	2,237	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	1,741		
					需用費	496		
人件費	職員従事工数	人工	0.09	0.09	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	659	656	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,661	2,893	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	河川公園等維持管理事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	牧親水公園は平成7年度に供用開始した。彦間側河川公園は平成11年度に栃木県と管理協定を締結し維持管理が開始された。水辺の楽校は平成17年度から平成19年度に渡り栃木県に占用申請を行い、張り芝を実施した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	平成17年合併時に河川公園条例を制定し、河川公園の管理対象・内容が明確化された。令和元年度東日本台風により被災した水辺の学校敷地は、現在河川の復旧工事を実施しており緑地の機能は果たしていない。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業統合・連携	公園管理を良好に管理できるよう、令和5年度予算の編成時に公園維持管理事業との統合を行った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	公園維持管理事業	成果向上余地がある程度ある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
河川公園としての草刈等最低限の管理であり、管理内容に伴った成果は出ているが、公園維持管理事業と統合する事により、より機動的な維持管理が出来る。			成果向上余地がある程度ある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
利用者の増える時季に入る以前に、取水堰の土砂撤去等を行ったことにより、利用しやすい環境を提供できたことによる。		公園維持管理事業へ統合し委託業務等を執行する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	事業統合・連携			
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中			公園維持管理事業へ統合する。			
	小						
		大	中	小	成果向上余地		

事務事業マネジメントシート

事務事業名		(仮称) 高萩中央公園整備事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり			事業 区 分	新規・継続	継続事業
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	国県補助事業
	基本事業	04	都市公園の整備				任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	08	04	05	(仮称) 高萩中央公園整備事業			
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	平成24年度 ~ 令和5年度			
根拠法令・条例等		都市公園法・佐野市都市公園条例・佐野市高齢者、障害者等の移動等の円滑化のために必要な特定公園施設の設置						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
1. 3.2haの地区公園整備計画案を立て、高萩町会及び鏡塚町会と整備内容について説明会を行う。 2. 説明会の意見・要望を参考に整備計画を立てる。 3. 一部用地を買い戻す。(A=2,847㎡) 4. 都市計画決定を行う。 5. 公園整備工事の設計を行い工事を発注する。 6. 整備工事完成後、公告し供用開始する。 総事業費 545,600千円					【明許繰越事業】・資材単科特別調査業務委託61,600円を実施。・整備工事その2(32,787,000円)、水道管布設替え工事(1,199,000円)、付帯工事(958,540円)を実施。整備工事その1(繰越)30,701,000円の内18,701,000円をR5年度へ繰越 【現年度事業】遊戯施設外修正設計業務委託484,000円を実施。・電気工事680,900円実施。整備工事その2(47,850,000円)をR5年度へ明許繰越						
					活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					土地の取得面積	㎡	0	0	0	0	0
					調査・設計を行った面積	ha	0	0	0	0	0
					整備工事を行った面積	ha	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
近隣住民 公園予定地					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					近隣住民人口(高萩町、鏡塚公園予定地)	人	4,998	5,053	5,000	5,000	5,000
						ha	3.2	3.2	3.2		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
近隣の住民が安心して遊ぶことができ、休息することができる場所となる。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					事業進捗率	%	目標 77.7	88.4	100	100	100
							実績 75	79.7			
							目標				
							実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					市民一人当たりの都市公園面積(県営を含む)	㎡	目標 20	20	20	20	20
							実績 19.93	20.15			
							目標				
							実績				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(目標)	R6年度(目標)	R7年度(目標)	
	国庫支出金	千円	48,129	21,925	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	47,900	24,600	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	3,782	1,646	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	99,811	48,171	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					工事請負費	47,625		
					委託料	546		
人件費	職員従事工数	人工	0.47	0.47	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	3,444	3,425	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	103,255	51,596	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	(仮称) 高萩中央公園整備事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	佐野新都市開発整備事業の際に当公園が計画された。予定地は最終処分場跡地であったが、平成22年度に水質調査をクリアーし平成23年1月に最終処分場が廃止となったため、公園整備が可能となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	北側に隣接する下水道雨水幹線東部4号の上部を新設道路として活用する要望が地元からあり、公園計画の際は、関係課と協議した。国庫補助採択には、最終処分場跡地の水質の安全性及び都市計画決定が必須となっていること、防災施設を整備するには、防災計画への位置づけなど要件がある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・供用開始前だが整備済み遊具を利用させて欲しい。 ・廃棄物最終処分場であった旨を公園看板に記載して欲しい。 ・公園名称案を提案された。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
新型コロナウイルス感染症の影響により複合遊具の材料調達に不測の日数を要し、年度内に工事が完了せず翌年度へ繰り越すこととなったため。		令和5年度第1四半期に繰越工事を完了し、令和5年度現年度工事を計画的に実施する。進捗管理を随時行い、工事進行に悪影響を及ぼしそうな要因があるときは早急に対応策等を検討・実施し、正常な事業実施が出来るようにする。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大	○		事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 ①事故繰越及び明許繰越の工事は第1四半期に完了させる。 ②令和6年3月の開園式までに工事及び物品購入を完了させる。	①随時、工事の進捗管理を行い、第1四半期に繰越工事を完了させる。 ②関係者の意見を聞き防災用物品の購入を行う。工事の進捗管理を適切に行う。
	中				
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		都市公園安全安心支援事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	新規事業	
	政策	02 住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	国県補助事業	
	基本事業	04 都市公園の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	08	04	05	都市公園安全安心支援事業			
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	平成26年度 ~ 令和7年度			
根拠法令・条例等		都市公園法・佐野市都市公園条例・佐野市高齢者、障害者等の移動等の円滑化のために必要な特定公園施設の設置						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
公園利用者に安全で安心して公園施設を利用してもらえるよう施設のバリアフリー化を図り、快適で質の高い公園整備を図る。 園路やトイレ等の施設バリアフリー化を図り、合わせてトイレを水洗化する。					・佐野市都市公園長寿命化計画に基づく事業。 ・小種島東公園、関川第2公園、若原西公園、関川第1公園、新吉水第1公園、多田公園の工事に伴う実施設計業務委託を実施した。 ・奈良淵第2公園、小種島東公園、関川第2公園のトイレの水洗化及び園路等のバリアフリー化工事を実施した。							
										活動指標		単位
バリアフリー化する公園数		箇所	0	3	4	3	3					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
工事を実施する施設 (トイレ、園路、出入口) 公園利用者					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
工事を実施する施設数					箇所			0	3	4	3	3
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
公園施設をバリアフリー化して、利用者の安全安心を確保する。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
汲取りトイレでバリアフリー水洗化した割合					%	目標	38.1	52.4	71.4	85.7	100	
						実績	38.1	52.4				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
都市公園の汲み取りトイレの解消率					%	目標	38.1	52.4	71.4	85.7	100	
						実績	38.1	52.4				

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	19,300	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	17,300	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	4,584	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	41,184	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					工事請負費	34,694		
					委託料	6,490		
人件費	職員従事工数	人工	0	0.36	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	2,623	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	43,807	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	都市公園安全安心支援事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	H4年度から都市公園トイレ水洗化事業を開始し、H16年度から開設公園のバリアフリー化を開始した。H27年度から国の補助事業としてトイレの水洗化及び園路等のバリアフリー化を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	国の交付金事業は令和2年度から令和6年度までの時限事業となっている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	新規事務事業により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
国の補正予算により対象箇所数は増加したが、計画的な執行により成果指標が達成できた。		<ul style="list-style-type: none"> ・後年度以降実施予定箇所を含めた実施設計委託を実施する。 ・R5年度予定箇所のトイレの水洗化及び園路等のバリアフリー化工事を実施する。 	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中	○			
	小				
	成果向上余地				
	大	中	小		

事務事業マネジメントシート

事務事業名		城山記念館運営事業					本年度担当課	都市整備課	
							前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業	
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	04	都市公園の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			事業 区 分	
	一般	08	04	05	城山記念館運営事業				
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成23年度 ~			実施方法	一部委託
								事業分類	施設維持管理事業
								市長公約	該当なし
								総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 都市公園法、佐野市都市公園条例									

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)															
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)										
城山公園は、JR佐野駅・東武佐野駅の北側、佐野市の中心に位置し、多くの市民・観光客が利用している。その城山公園内にある城山記念館を維持管理して、各種団体等に多目的室や和室を提供している。					・4月～3月 会計年度任用職員2名を配置し城山記念館の運営及び維持管理を実施。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、R5. 1. 24までは貸し館業務は人数制限を行った。R5. 1. 25以降はチェックリスト遵守により人数制限を解除した。マスク着用はR5. 3. 14以降利用者の判断に任せることとした。										
											活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)
					城山記念館の開館日数	日	250	303	307	306	306				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)															
城山記念館利用者					対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
					城山記念館の利用者数	人	10,998	15,274	16,000	16,000	16,000				
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)															
城山記念館を快適に利用してもらう。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
					利用者からの苦情件数	件	目標	0	0	0	0	0			
							実績	0	0						
										目標					
										実績					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)															
快適な住環境創出のため、公園等の整備を推進する。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
					市民1人当りの都市公園面積(県営を含む)	㎡	目標	20	20	20	20	20			
							実績	19.93	20.15						
										目標					
					実績										

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	1,651	4,167	0	0	0	
	一般財源	千円	8,510	6,969	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	10,161	11,136	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報酬	4,112		
					需用費	2,735		
					委託料	2,404		
					職員手当等	819		
					共済費	816		
					役務費	148		
			使用料及び賃借料	67				
		旅費	35					
人件費	職員従事工数	人工	2.31	2.31	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	16,925	16,833	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	27,086	27,969	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	城山記念館運営事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成22年度までは公園維持管理事業として他の公園と併せた事業であったが、事務の効率化を図るため平成23年度から城山記念館運営事業として管理することとなった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	新型コロナウイルス感染症の影響により、従来は和室の利用者が多目的室も使用するようになった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	多目的室の利用方法が多様化したことにより、会議等で使用する机をしまっておいて欲しいとの要望があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
城山記念館に常駐職員を配置し施設の運営を適切に行ったほか、新型コロナウイルス感染症対策として、カメラ型非接触体温計、アルコール消毒液、飛沫の飛散防止対策用アクリルパネルを設置したことによる。		専従職員を常駐させ施設の運営を適切に行う。 新型コロナウイルス感染症対策は、状況に合わせて対応方法を見直していく。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		公園維持管理事業					本年度担当課	都市整備課				
							前年度担当課	公園緑地係				
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					新規・継続	継続事業			
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり					実施計画・一般	一般事業			
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備					市単独・国県補助	市単独事業			
	基本事業	04	都市公園の整備					任意・義務	任意的事業			
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名					事業 区 分	実施方法	一部委託
	一般	08	04	05	公園維持管理事業						事業分類	施設維持管理事業
事業計画		単年度繰り返し			事業期間	~					市長公約	該当なし
根拠法令・条例等		都市公園法、佐野市都市公園条例										

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）						令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）					
・都市公園170箇所及び緑地広場等を、季節に応じた作業を適切に行い、良好に維持管理する。 ・維持管理作業は直営、専門業者、シルバー人材センター及び町会等へ委託して実施する。						・都市公園175公園の内、運動公園等5公園を除く170公園及び緑地広場等の維持管理作業（清掃、除草、樹木剪定、害虫駆除、施設の点検・維持・修繕など）を実施した。					
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
都市公園						対象指標					
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
都市公園を安全・快適に利用してもらう						成果指標					
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。						上位成果指標					

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	2,706		1,799		0		0		0	
	一般財源	千円	108,453		122,584		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	111,159		124,383		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	80,531						
					需用費	26,248						
					給料	7,041						
					工事請負費	3,425						
				職員手当等	1,739							
				備品購入費	1,713							
		共済費	1,418									
		その他	2,269									
人件費	職員従事工数	人工	0.96		0.96		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	7,034		6,996		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	118,193		131,379		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	公園維持管理事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	明治22年に城山公園が供用開始され、公園の維持管理が始まった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	こどもから高齢者まで利用者の年代が幅広く、要望等が多様化している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	多くの市民から遊具や公園施設の不具合、広場の除草、樹木の剪定、害虫防除など要望されている。議会から駐車場整備についての要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業統合・連携	新年度予算編成時において、公園維持管理事業と河川公園等維持管理事業の統合を行った。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	河川公園等維持管理事業	成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
類似の河川公園等維持管理事業連携しながら事業を運用した。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
市民からの要望は多様化しており、苦情・要望は増加している。		<ul style="list-style-type: none"> ・会計年度任用労務職員を配置し正職員とともに公園の維持管理を行う。また、維持管理に必要な作業機器の更新等を行う。 ・遊具等公園施設の不良箇所等を修繕する。 ・維持管理業務委託契約を締結し業務を執行する。 ・労務職員に業務に必要な講習等を受講させる。 	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性				(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策			
目標達成度	大		○	事業統合・連携							
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。							
	中			河川公園等維持管理事業と統合する。							
	小										
	大	中	小	成果向上余地							

事務事業マネジメントシート

事務事業名		城山公園駅北駐車場維持管理事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	継続事業
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	一般事業
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	04	都市公園の整備				任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			事業区分
	一般	08	04	05	城山公園駅北駐車場維持管理事業			実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成23年度 ~			事業分類
								市長公約
								総合戦略
根拠法令・条例等		都市公園法・佐野市都市公園条例						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
城山公園は、JR佐野駅・東武佐野駅の北側、佐野市の中心に位置し、多くの市民・観光客が利用している。その城山公園内にある城山公園駅北駐車場を運営及び維持管理し、公園利用者等の利便を図る。					・4月～3月 駐車場の運営及び維持管理を実施。 ・全自動精算機等の機器を新規賃貸借保守管理の契約を行った。							
										活動指標		単位
駐車場の稼働日数		日	365	365	366	365	365					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
城山公園駅北駐車場利用者					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
駐車場の利用台数		台	32,004	40,640	42,000	42,000	42,000					
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
城山公園駅北駐車場を快適に利用してもらう。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
利用者からの苦情件数		件	目標	0	0	0	0	0				
			実績	0	0							
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
快適な住環境創出のため、公園等の整備を推進する。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民1人当りの都市公園面積 (県営を含む)		m ²	目標	20	20	20	20	20				
			実績	19.93	20.15							

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,892	3,589	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	2,892	3,589	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	2,105		
					使用料及び賃借料	988		
				需用費	495			
人件費	職員従事工数	人工	0.1	0.1	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	733	729	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,625	4,318	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	城山公園駅北駐車場維持管理事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成22年度までは公園維持管理事業として他の公園と併せた事業であったが、事務の効率化を図るため平成23年度から城山公園駅北駐車場維持管理事業として管理することとなった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	特になし。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
城山公園駅北駐車場を適切に維持管理できたことにより成果指標の目標達成が出来た。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場機器を適切に維持管理する。 ・ 城山公園駅北駐車場を駐車場を適切に維持管理する。 	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
	成果向上余地				

B表（事後評価シート）

事務事業名	城山公園駐輪場運営事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成26年度に城山公園駐輪場を公園利用者が適正に利用できることを前提に、一般の方も利用できるよう料金徴収システム等の施設整備を検討する事が佐野市中心市街地活性化基本計画庁内推進会議にて決定され整備運営した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	特になし。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	利用者から駐輪場に屋根の設置要望があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
駐輪場を適切に管理できたことにより成果指標の目標が達成できた。		・駐輪場を適切に維持管理する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

事務事業マネジメントシート

事務事業名		日本公園緑地協会参画事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	公園緑地係	
政策 体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	04	都市公園の整備			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	08	04	05	日本公園緑地協会参画事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	~			
根拠法令・条例等								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
日本公園緑地協会に会員として負担金を支出している。また協会発行の機関誌等により公園に関する情報収集を行っている。 日本公園緑地協会は、公園緑地の健全な発展を図ることを目的として、地方公共団体512、法人137、個人209、賛助会員75の合計933団体が会員となっている。			(市の活動) 日本公園緑地協会に負担金を支出 同協会発行の機関誌やメール等から情報収集し事務事業に活用した。 (日本公園緑地協会の活動) 総会、研修会、講演会の開催 都市公園の管理に関する情報収集と会員への情報提供							
			活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
都市公園数	箇所	175	175	176	176	176				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市職員			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
(参画対象団体) 日本公園緑地協会			都市整備課の職員数	人	19	23	23	23	23	
			日本公園緑地協会会員数	団体	938	933	933	933	933	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
都市公園についての最新情報を得て、事務事業に活用する。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			市民からの苦情・要望件数	件	目標	0	0	0	0	0
					実績	317	297			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			市民1人当りの都市公園面積(県営を含む)	㎡	目標	20	20	20	20	20
					実績	19.93	20.15			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	50	50	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	50	50	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	50		
	人件費	職員従事工数	人工	0.01	0.01	0	0	0
	人件費計(B)	千円	73	73	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	123	123	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	日本公園緑地協会参画事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和42年に日本公園緑地協会が発足した。佐野市は合併以前から会員として参画し事務事業の情報収集等を行っている。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	都市公園の整備に関し、災害時の避難及び防災拠点となる広場の確保、またバリアフリーに適合した整備促進が求められている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
市民からの要望は多様化しており、苦情・要望は増加している。		日本公園緑地協会から必要な情報を収集出来るよう会費を支出し参画する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中		○		
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

事務事業マネジメントシート

事務事業名		都市公園ナラ枯れ被害対策事業					本年度担当課	都市整備課		
							前年度担当課	公園緑地係		
政策体系	基本目標	05	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					新規・継続	新規事業	
	政策	02	住みやすい快適なまちづくり					実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	快適で質の高い住環境の整備					市単独・国県補助	国県補助事業	
	基本事業	04	都市公園の整備					任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			実施方法	一部委託	
	一般	08	04	05	都市公園ナラ枯れ被害対策事業			事業分類	施設維持管理事業	
事業計画		期間限定複数年度		事業期間		令和4年度 ~ 令和5年度			市長公約	1-⑥
根拠法令・条例等		総合戦略								該当なし

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）											
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
・ナラ、クヌギなどの樹木の内部に穿孔して生息する日本固有の昆虫であるカシノナガキクイムシによる被害（ナラ枯れ）が、本市内の公園で令和4年8月に被害が確認されたので、早急に防除対策を行う。 ・被害樹木は、粘着剤を木の幹に巻き付け、羽化したカシノナガキクイムシの飛散を防止する。 ・被害を受け枯れた樹木は、伐倒する。 ・被害を受けた公園内にある健全木は、薬剤を注入することにより被害を防止する。				令和4年度内に城山公園の被害木3本を伐採（495千円）した。また、4公園のコナラに対し薬剤樹幹注入及び粘着シート巻き付け作業を行う業務委託契約（4,774千円）を締結した。薬剤樹幹注入及び粘着シート巻き付け作業費は事業費は令和5年度に繰り越し実施した。							
				活動指標		単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
				被害を受けた公園数	箇所			4	0	0	0
				伐採以外で防除した木数	本			0	223		
伐採したコナラ数	本			3							
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）											
カシノナガキクイムシの被害を受けた都市整備課所管の都市公園等の被害木等				対象指標		単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）
被害本数				本		0	118	0	0	0	
確認できた健康木数				本		0	108	108	108	108	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）											
被害を受けた公園内の被害木へはネット巻き付け、健康木へは薬剤樹幹注入の防除対策を実施した状態とする。枯れてしまった樹木のうち管理上支障のある樹木は伐採処分する。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				被害を受け生きているコナラに対処した割合	%	目標	0	0	100	0	0
				管理上支障のある枯損木を伐採した割合	%	目標	0	100	0	0	0
						実績	0	100			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）											
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民一人当たりの都市公園面積				m ²	目標	20	20	20	20	20	
					実績	19.93	20.15				
					目標						
					実績						

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）		R4年度（実績）		R5年度（目標）		R6年度（目標）		R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		495		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		495		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	495						
人件費	職員従事工数	人工	0		0.34		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	0		2,478		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		2,973		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	都市公園ナラ枯れ被害対策事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	公園緑地係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	令和4年度に都市公園のカシノナガキイムシによる被害が確認され、今後の被害拡大を防止するため専門業者による防除対策事業を企画した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	カシノナガキイムシは令和元年度までは栃木県では確認されていなかった。令和4年度には佐野市でも確認された。カシノナガキイムシは飛来してから数年は当該地域に生息するが、その後どこかへ移動していく性質の昆虫であるため、いずれは本市内からいなくなるものと思われる。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	カシノナガキイムシのフラスを職員が確認したことから事業を企画した。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	新規事業により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はあるが、統合・連携できない	都市公園クビアカツヤカミキリ被害対策事業		取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
業務委託により枯損木を伐採処分した。		繰り越した契約済み委託事業は履行期間内に完了できるよう進捗管理を行う。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	成果向上余地				

事務事業マネジメントシート

事務事業名		都市公園クビアカツヤカミキリ被害対策事業				本年度担当課	都市整備課	
						前年度担当課	都市整備課	
政策 体系	基本目標	05 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり				新規・継続	新規事業	
	政策	02 住みやすい快適なまちづくり				実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01 快適で質の高い住環境の整備				市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	04 都市公園の整備				任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款 項 目 予算事業名				事業 区 分	実施方法	一部委託
	一般	08	04	05	都市公園クビアカツヤカミキリ被害対策事業		事業分類	施設維持管理事業
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	令和4年度 ~ 令和6年度			
根拠法令・条例等		都市公園法施行令・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)																	
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)												
栃木県の防除対策マニュアルに基づき対策実施。 令和4～5年度は、城山公園及び堀米桜堤を最優先公園等として、被害木の把握・調査と被害木への薬剤注入、ネット巻き付け・取り外し、巡回、伐採処分等を実施する。 令和6年度は、松原公園、旗川戸奈良緑地、嘉多山公園、朱雀中央公園及び梅林公園の防除対策を実施する。 この他、他部署で購入した薬剤等を使用し、市職員によりクビアカツヤカミキリの被害を受けた樹木に対し防除事業を実施する。					・令和4年度はクビアカツヤカミキリ被害対策として巡回、被害木への薬剤注入、伐採処分を職員により実施した。また、これまでより被害が拡大したことから12月議会にて防除事業費の予算を計上したが、防除対策のスケジュール上事業費2,178,000円を令和5年度へ繰り越した。このため令和4年度の決算額は0円となった。												
										活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
										薬剤樹幹注入した被害木本数		本		40	117	225	-
										ネット巻付した被害木本数		本		1	143	225	-
				39	18	11	-										
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)																	
クビアカツヤカミキリの被害を受けた都市整備課所管の都市公園等の被害木					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)					
					所管公園等の被害本数		本		407	389	378	-					
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)																	
被害木へは薬剤注入・ネット巻き付け・伐採等の防除対策を実施した状態とする					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					
					被害木の内、防除対策を実施した割合		%	目標	0	19.4	51.7	100	-				
							実績	0	19.4								
								目標									
			実績														
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)																	
快適な住環境創出のため、公園等が整備されている。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度					
					市民一人当たりの都市公園面積(県営を含む)		%	目標	20	20	20	20	20				
							実績	19.93	20.15								
								目標									
			実績														

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	0		0		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0		0.17		0		0		0
	人件費計(B)	千円	0		1,239		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		1,239		0		0		0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	都市公園クビアカツヤカミキリ被害対策事業	本年度担当課	都市整備課
		前年度担当課	都市整備課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	令和4年度に都市公園等のクビアカツヤカミキリ被害の件数が大幅に増加し、市職員による防除のみでは対応しきれなくなり、専門業者による防除対策事業を計画した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	令和4年に特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律が一部改正され、被害の発生状況等の実情に応じ、日本に定着した特定外来生物の被害防止措置に市町村も努めることとなった。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	クビアカツヤカミキリ被害に対する市の対応等についての市議会での一般質問や、町会長等からクビアカツヤカミキリ被害に対する防除についての意見が寄せられた。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	新規事業により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務の一部を委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	クビアカツヤカミキリ対策事業費		向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
クビアカツヤカミキリ対策事業費により樹幹注入薬剤や防除ネットを購入し、市都市整備課職員により防除対策を実施した。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
<ul style="list-style-type: none"> 城山公園及び堀米桜堤の桜を対象に、被害木の把握、調査及び被害木への薬剤樹幹注入を実施する業務委託契約を締結し、全額をR5年度へ繰り越した。 職員によりクビアカツヤカミキリ被害対策として巡回、被害木への薬剤注入、伐採処分を実施した。 以上のことから、目標が達成できた。		<ul style="list-style-type: none"> 被害状況を随時把握する。 市民からクビアカツヤカミキリ被害を受けている公園を報告してもらう。 	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 令和5年度に実施する重点2公園には国庫補助を導入し、業務委託により事業を実施する。その他の公園はクビアカツヤカミキリ対策事業費により市都市整備課職員による防除対策を実施する。	①クビアカツヤカミキリ対策事業費にて購入する物資の数量を事前に把握する。 ②補助事業の内示時期が防除対策の準備を開始する時期とズレており、防除対策の内容を変更せざるを得ないため、環境省に対し令和6年度補助事業の交付決定内示を早期にされるよう要望する。
	中				
	小				
	成果向上余地				